

2(2) その他, 特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果, 世界的位置付けなど。(評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)

特筆すべき教育活動

1. 高等教育フォーラム開催による継続的な高大接続事業
 高校教諭参加の高大接続を目指す第8回高等教育フォーラム「新時代の大学教育を考える 高校教育と大学入試:「AO入試」の10年を振り返る」を開催し、高校関係者81名を含む177名の参加があった。
2. 高大接続事業のアウトリーチプログラムの継続的な開催
 青森市文化会館において東北大学高等教育開発推進センターアウトリーチプログラム(2)「大学って何だろう?」を開催し、青森県内6校の公立高校の高校生、保護者、教員約1,200名の参加があった。
3. 入試広報活動の展開
 入試センターを中心に、「大学案内」の企画、作成、各種説明会(高校生対象の「進学説明会」7月東京会場506名参加、大阪会場12月154名参加。教員対象の「入試説明会」5~7月、16会場、仙台会場160名参加。高校訪問19校、等) オープンキャンパスの全学的な企画・調整・支援(7月、参加者41,448名)等を実施。こうした活動に対し、『大学ランキング2010』(朝日新聞社)では高校からの評価「広報活動に熱心」という項目で第2位にランクされた。
4. 新英語カリキュラムの整備とTOEFL-ITPの実施
 新英語カリキュラムの平成21年度実施に向けて、授業科目概要・内容、開講時間数・時間帯、クラスサイズ、TOEFL-ITP評価基準などについて、新カリキュラムの編成、整備を行った。
 また、本学が英語教育強化のための改革に着手したことを学生に周知する目的も込み、先行導入可能な施策として、全学部1年次学生の受験希望者を対象にTOEFL-ITPを実施した。
5. DVD『2008年度基礎ゼミ実践事例集』作成とウェブサイトでの公開
 特色GP事業の一貫として、全学教育科目「基礎ゼミ」の優れた実践事例集と基礎ゼミFDの様子をDVDに収録するとともに、ウェブサイトにおいて公開して教育内容・方法の改善の波及に努めた。
6. 全学教育「情報基礎」の次世代教育内容の策定
 高等学校新課程において教科「情報」を修めた学生が学士課程入学者のほとんどを占める状況を受け、学生の特質や大学教育への期待などの調査分析に基づき、本学の教養教育改革を背景として、アカデミックスキル・ソーシャルスキルの獲得と初年次体験を主眼とする教育内容に改訂した。平成22年度実施予定。
7. 「アドバンスト・マスマティクスコース」の継続的な開講
 学部の初期段階(2~3セメスター)における意欲的な学生を対象に、数学の演習を中心としたレベルの高い少人数教育「アドバンスト・マスマティクスコース」を引き続き開設し、学生の数学の基礎力向上を実現した。
8. 学生相談所による継続的な予防教育的活動
 予防教育的授業としての全学教育「学生生活概論」、主催FD4回、さらに部局による6つのFD、3つのTAガイダンスにおいて講演等による予防教育的活動を実施。このような活動への注力は他大学の学生相談関係者にとって先導的な取組みである。
9. 地元企業と連携したインターンシッププログラム
 平成20年度より河北新報社と提携して夏季インターンシッププログラムを実施し、学生のキャリア観の醸成および地元企業と連携し人材の育成に努めた。また、インターンシップ関連のセミナーを開催し、学部2年生から博士課程後期までの学生167名の参加があった。
10. 日本人学生と留学生の共修授業を実施
 全学教育「基礎ゼミ」の授業を「外国人留学生等特別課程」の日本文化演習授業と合同開講の形で開講し、日本人学生と留学生がともに参加して意見交換や共同作業を行う共修授業を実施し

た。

11. 留学生対象に日本語で研究を行うためのスキル向上授業を実施

「外国人留学生等特別課程」の上級日本語応用クラスで、論文作成、口頭発表など日本語で研究を行うためのスキルを習得させる授業を実施した。

特筆すべき研究活動

1. 大学教員の能力開発に関する研究

文部科学省特別教育研究経費「国際連携を活かした高等教育システムの構築」プロジェクト事業によるFD研究の調査結果を『ファカルティ・ディベロップメントを超えて』(東北大学出版会)として出版したほか、「大学院重点大学における組織経営と教員の能力開発(FD)の有機的連携に関する研究」として、東北大学教員対象の調査を行い、FD ニーズの年代別特性、部局の組織目標との関連などを検討し、論文(『東北大学高等教育開発推進センター紀要』第4号(以下、「センター紀要」))及び学会発表(日本高等教育学会第12回大会)を行った。これらの成果に対しては全国的に注目され、関西地区FD連絡協議会シンポジウムで招待され、報告を行った。

2. 大学における「転換」教育の研究

特色GPとして、初年次における言語指導に関するシンポジウムを開催し、その成果を『「学びの転換」と言語・思考・表現』(東北大学出版会)として公表・刊行し、全国の大学に向け発信した。この成果は注目され、千葉大学普遍教育シンポに招待され、報告を行った。

3. 「教育の成果」に関する研究

「学生による授業評価」とその活用に関する研究を進め、専門家を招聘して公開講演会を3回にわたり開催し、東北地域各大学の実情調査も行き、その分析結果をセンター紀要に公表した。

4. 高等教育政策ならびに高等教育の国際動向に関する研究

科学研究費による「アジア・太平洋地域における高等教育の市場化政策に関する比較研究」を進め、国際シンポジウム(2回)など調査研究を行った。

また、地域連携、労働市場と高等教育など4回にわたり、国際的な高等教育研究者による高等教育国際セミナーを開催し、高等教育情報の発信を進めた。

5. 東北大学の入試改善に関わる研究

東北大学の入試改善に資するため、追跡調査に関わる研究および実施、10月入学拡充のための調査研究、入試における調査書利用に関する研究等を実施し、その成果をセンター紀要や本センター発行の報告書により公表した。また、AO入試の実施状況に関わる調査研究に関わる発表に対し、日本テスト学会から入試開発室倉元准教授が大会発表賞を授与された。

6. 「東北大学における発達障害学生修学支援システムの構築」に関する研究

発達障害学生修学支援システムの構築の研究を教育学研究科と共同で行い、平成21年度、総長裁量経費によって発展させることが決定した。成果は重要であり、全国の大学に発信する予定である。

7. 健診時高血圧学生における意義に関する研究

毎年、定期健康診断時に高血圧を指摘される学生は10%にのぼっている。これらの学生に対してその後の対応方法についてはまだ確立していない。本研究では健診後において2~3回の追加随時血圧測定を行い、それでも高血圧状態の学生に対して4週間以上自宅血圧測定を実施していわゆる白衣高血圧を除外し、真に精査が必要な高血圧学生をスクリーニングする高血圧検診システムを導入した。

本システムの導入により、高血圧の治療が必要な学生をピックアップすることが可能となった。研究成果は関連学会(第46回全国大学保健管理研究集会)に発表し、優秀演題賞を受賞した。

8. 世界リーディング・ユニバーシティの組織・ガバナンス・経営に関する調査研究

木島明博センター長及び米澤彰純准教授が、東北大学総長室のミッションとして、欧州及び米国の世界リーディング・ユニバーシティへの訪問調査や、部局長選考に関する電話によるヒアリング調査、世界大学ランキングに関する調査研究などを行った。部局長選考の調査については、米澤准教授が論文（センター紀要）として公表して社会に還元した。

特筆すべき社会貢献活動等

- 1．東北地区国公立大学との継続的な連携事業
東北地区国公立大学との連携のもとに、平成 20 年度 IDE 大学セミナーとして第 9 回高等教育フォーラム「大学教育改革と教育成果の測定」を開催し、94 名の参加があった。
- 2．高大連携事業 SPP 「コスモス理科実験講座」の継続的实施
宮城第一高等学校と連携しつつ、サイエンスパートナーシッププログラム（SPP）事業をとおりして「コスモス理科実験講座」を開催し、高校と大学の教育的接続の事業を継続的に展開した。
- 3．「全国学生相談研究会議」の中心的な役割と貢献
全国の大学カウンセラーによる「全国学生相談研究会議」の会長に学生相談室吉武教授が選任され、事務局を学生相談室が担い、全国の大学の学生相談カウンセラーへの指導の中心的役割を担っている。
- 4．全国及び地域に根ざした学生生活支援事業への多彩な貢献
学生相談室の吉武教授が、日本学生支援機構の「学生生活支援事業のあり方に関する有識者会議」有識者委員・主査となり、全国の学生生活支援事業のあり方について中心的役割を担っている。また、学生相談室は継続的に、仙台学生相談事例研究会を主宰し、地域の大学のカウンセラー研鑽の機会を提供した。
- 5．東北呼吸ケアフォーラムの開催
東北地区の医師のみならず看護師等メディカルの方々、更には呼吸不全で悩んでおられる患者さんの参加のもとに呼吸ケアに関する研究成果の情報交換を行なった。
- 6．健康科学セミナー・健康科学講演会の開催
本学の保健管理センタースタッフのみならず近隣の大学の保健管理室勤務のスタッフを対象にしたセミナーを 5 回実施した。また、本学の学生、職員を対象に平成 20 年度は「輸血を介する感染症との闘い - 赤十字のしくみと血液事業 - 」の講演会を実施した。
- 7．スタッフ・ディベロップメントの実施
教職員を対象にした高等教育経営セミナーを開催し、「評価」についての理論的実践的問題について教育を行った。